



～支え合いの地域づくり～ 福祉推進員研修会

9月16日(土)古牧公民館で、福祉推進員研修会が開かれました。講師には長野市社会福祉協議会地域福祉課土屋ゆかり主幹をお迎えして、演題は誰もが自分らしく生きるために「支え合いの地域づくり」です。

福祉推進員が生まれた背景は平成に入り、長野市でも亡くなっていたことに気が付かず数日以上たってから発見される、という孤独死が地区の中で起きるようになって来ました。

また、高齢化やひとり暮らしの世帯が増える中、「新聞がたまっていないか」「電気がついていないか」「困っていることはないか」等の身近な気づきの目が大切になってきましたが、民



生児童委員だけで見守ることが困難なため、長野市社協が呼びかけ生まれました。

福祉推進員が発足した当初は、気づく、見守るなど高齢独居世帯への訪問活動も行っていました。

しかしながら、法令に位置づけられた民生児童委員と

は違い、訪問活動は福祉推進員にとっても訪問先の高齢者にとっても負担や抵抗感がありました。

そこで、訪問によるつながりをつくるよりもサロンに集まっていただく中で気づいたり、見守ったりする方がお互い負担がないのでは、との考えのもと、福祉推進員による「サロン活動」が始まりました。

サロン活動で大切なことは、楽しく、無理なく、気軽に、過ごせる集いの場です。

福祉推進員になったことをきっかけに、身の回りで起きていることや近所の方のことをちょっと気にしていこうと思います。そんな福祉の気持ちを心掛けることで「支え合いの地域づくり」を広げることができると思います。

(福祉健康部)



交通事故^{ゼロ}を目指して!

悲惨な交通事故から10年が経ちました。

交通安全部では、交通安全協会古牧支部とともに古牧地区の主要交差点2か所(9月6日・西尾張部交差点、13日・東和田交差点)で

「交通安全住民集会」開催しました。

9月20日に予定していました上高田交差点はあいにくの雨のため中止となりました。

次頁につづく

前頁のつづき

この住民集会は平成25年に三陽中学校生徒の交通死亡事故を受けて、古牧地区から交通死亡事故を0にすることを目的に開催されているものであります。

市議会議員、住民自治協議会の役員、区長、長野中央署和田交番が参加しました。毎月第一水曜日の朝に、同交差点において「長野市交通安全マナーアップデー」として、交通安全街頭啓発活動を行っていますが、マナーアップデーに参加している三陽中学校の生徒もそれぞれの会場に多数参加してくれました。集会では、和田交番の加部登志彦所長の話しの後、事故当時、五分一区の区長であった田中友雄さんより、事故のあった西尾張部交差点の改良工事のお話がありました。その後、のぼり旗を持って歩道内に立ち自転車、



自動車の運転手、歩行者の皆さんに交通安全の注意喚起をしました。

この様な取り組みを続けていくことで、交通安全意識が向上し、交通事故防止、交通死亡事故0の活動が推進できればと思います。

(交通安全部)

古牧地区社会を明るくする運動住民集会を開催

9月30日(土)に「第73回古牧地区社会を明るくする運動」住民集会が古牧公民館において開催されました。

長野日本大学中学校の飛沢快晴さんと服部彩稀さんから社会を明るくする運動作文コンクールの入選作の朗読があり、自分の身の回りの出来事から犯罪や非行のない社会を作りたいとの内容に中学生もいろいろと考えていることに感心しました。

朗読のありました入選作文は、本号に掲載



しましたので、ご覧ください。

続いて「薬物乱用防止啓発」について一般社団法人長野ダルク代表の竹内剛様からの講演がありました。「ダルク」とは向精神薬・睡眠薬・覚せい剤・シンナー・咳止め薬・危険ドラッグ・アルコールなどの薬物に依存している人たちが、依存症から回復し、社会復帰を目指して、毎日行われる「グループ・セラピー」に参加することを手助けする民間のリハビリ施設です。

平成13年に薬物依存症者のリハビリセンターとして上田市内に拠点を置き、薬物依存症の本人の実体験から薬の怖さを社会に伝える活動をされており、今回の集会では、講師に同行された篠原様から、自らの実体験をお聞きし人間の弱さを痛感しました。ほんの小さな一言から戻ってしまう、抜け出せない……。大事なことは、「明るさ!」「家庭内が明るければ」、「明るかったならば」自分はこのような薬物依存症にはならなかった…。この言葉が耳に残った講演でした。

(総務部)

古牧地区全戦没者追悼と非戦の誓いを開催

9月27日(水)に西光寺(南高田区)にて「古牧地区全戦没者追悼と非戦の誓い」が開催されました。8名の僧侶の読経、静寂の中、僧侶の声が響き渡りました。

古牧地区では戦火の犠牲となられた古牧地区の方々の御霊みたまに対し哀悼の誠を捧げるとともに、ご遺族の皆様みなさまに哀惜の意を表してきました。

しかし、遺族の皆様方の高齢化によって年々参加者が減少してきたため、戦没者の慰霊のみならず世界の恒久平和を祈る集いとして、広く古牧地区の住民の皆様みなさまに普段着で気軽に参加していただくよう呼び掛けて開催しているものです。



今回は、遺族会、市議会議員など30名の皆様みなさまが参加され、僧侶の厳かな読経の中でお焼香が行われ心が洗われるひと時で、改めて、戦争で犠牲になられた方々の御霊みたまの安らかならんことを願うとともに、非戦の誓いを新たにしました。(総務部)

歴史探索

ぐるりわがまち

東和田区

旧成美学校跡(観音庵)

古牧郷土史研究会 太田 和行

成美学校は、明治7年に東和田村・西和田村から「起業願」が提出され、現在の観音庵で教育が行われるようになったことに始まるが、明治18年に学区の改正があり、明治19年に高田学校が創設されるとこれに編入された。明治22年には市町村制が施行され古牧村が誕生した。これにより1村1校となり、明治22年4月に古牧小学校が創立された。このように成美学校は、明治7年4月から明治19年3月まで



石碑に彫られた「成美学校」の文字

の短い期間ではあったが、その間、中越村・太田村も加わり、近隣地域の教育に重要な役割を果たした。

なお、学校の名前は、論語の「子曰、君子しいうく くんしほ成人之美、不成人之悪、小人反是。」に由来しているとのことである。

また、前庭にある「成美学校」石碑は、平成11年の古牧小学校創立110周年に合わせ観音庵の役員の方々により建立されたものであるが、明治の元勲である山岡鉄太郎(鉄舟)に揮毫きごうをお願いし、額で保存していた書体を石に刻印したものである。

この観音庵も古く、創建されたのは江戸時代の寛文元年(1661)といわれ、昨年晋山式しんざんを行なった昌空さんで第九世になるとのことである。御本尊は、如意輪観音で東和田区民のみならず近隣地区住民の信仰を多く集めている。

地域たすけあい事業の協力員さん募集!

古牧地区にお住いの高齢者や障がいをお持ちのみなさんが日常生活で困った時に地域のみなさんのご協力を得ながら家事援助や外出のお手伝いなどを中心に行う事業です。

多くのみなさんにご利用いただいておりますが、この事業を支えていただく協力員さんを募集します。

ボランティア活動になりますが興味のある方はご連絡ください。

“身近な地域で支え合う、思いやりとやさしさをもった地域づくりを一緒にめざしましょう”



福祉移送サービス車両
「あいりーん号」

活動内容は？

- 福祉移送(古牧福祉自動車「あいりーん号」の自動車の運転)
 - ・自宅から医療機関等への通院などのお手伝い
 - ・身体介助は行いません。
- 家事援助(身の回りの家事のお手伝い)
 - ・ゴミ出し、住居等の掃除、草取りほか
 - ・身体介助は行いません。

活動時間は？

あなたの可能な日・時間帯で調整します。
(月数回程度です。)

資格は必要？

年齢や経験は問いません。ただし、福祉移送については一定の条件、講習を受けていただきます。

問い合わせ

古牧福祉サービスセンター(☎244-5522)です。

あなたの力強いご支援をお待ちしております!

娑婆鉛筆

しやばえんぴつ

平林区伝統の神楽保存会を絶やさぬよう

転勤族で長い会社生活を無事に終え、さて次は何をしたらと思案をしていたところ、地域の組長役が隣組の順番で廻ってきた。

祭典委員でお祭りのお手伝いがあり直会の席上、神楽保存会の大先輩より神楽をやりませんか。全くの未経験者でも練習をすれば大丈夫ですよ。我々もかつてはそうだったから。とのお誘いとご縁で加入したものの、獅子舞い・太鼓・笛 等どれがよいかと思案してもどれもこれも初めてのものばかりで、なかなか難しそう。中でも太鼓の音色が子どもの頃、村のお祭りの音として覚えていたことから太

鼓を練習することにした。いろいろとご教授を頂き気がついたら10年が経っていた。地区の祭りや関係先で幾度となくご披露してもプロの芸人も言うように、ほんとうに満足することは少ない。やればやる程、芸の深さに入り込む。

特に近年は各地区の役員の成り手不足と一緒に、後継者不足が悩みの種。200年もの間、絶やさずに続いている伝統芸能を絶やすわけにはいかない。保存会の門戸はいつでも開いています。我と思う方は是非ご加入を。お待ちしております。

(井原 章男)

11月から12月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和5年10月1日現在

11,809世帯

(男 13,013人

26,246人

女 13,233人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 田中 邦夫
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 SR



HP
ご覧ください